

国際交流員の
活動日誌

vol.58



Information

市政だより英語ダイ
ジェスト版を市役所、総
合支所、保原駅、梁川
駅等で配布しています。

「マリア餅」 Maria-mochi

日本では元日が一年中の最も祝われる時のようですね。門松やしめ飾りなどのきれいな飾りがあり、着物を着て神社に行く方々の姿も美しいと思います。欧米ではお正月よりクリスマスが大事で、元日でもクリスマス飾りをまだ飾っています。アメリカでは元日は特別な日ではありませんが、クリスマスは八日目にあたり、神の母聖マリアの祭日です。信者は教会に行くため、日本に住んでいる僕には毎年の初詣のような経験

になっていきます。

ある元日、教会に行った後、電車待ちで福島市の百貨店に行き、半額の鏡餅を見つけてきました。最初は中の餅を食べて飾りは捨てるつもりでしたが、鏡餅についていた赤い紙の扇子をマリア像に付けると後光のように見えました。鏡餅を載せる台紙に描かれた宝船は聖フランシスコ・ザビエルなどの宣教師が来日時に乗った帆船に見えました。台紙に餅の容器を置き、その上にマリア像を載せました。安定しなかったのが像が転ばないか心配でしたが、片付ける日まで無事でした。日本の文化と自分の文化や信仰を合わせたこの飾りで幸せなお正月が過ごせたので、これからも毎年飾るつもりです。その祭日を記念する祝い方法ですし、さらに元日に買うから、半額で餅が食べられますし！

地域の魅力 ふる里再発見

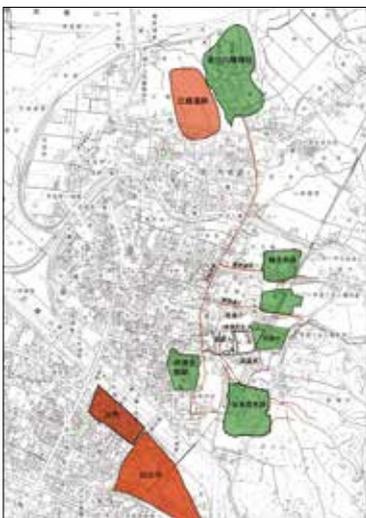
都市梁川の発展と歴史

梁川は、室町時代から戦国時代にかけて伊達氏の本拠地として機能しました。中心地は、塩野川から広瀬川までの区域となります（以下、中心域）。

中心域は、伊達氏の館を中心に東昌寺など伊達氏に欠くことのできない寺院などから構成されたと考えられます。また、塩野川から

北側には、梁川八幡宮を中心にしたエリアが広がっています。八幡宮の西側にある江越遺跡からは、鎌倉時代の建物跡などが発掘調査により見つかりました。江越遺跡は、八幡宮に伴う町屋などの性格が考えられます。広瀬川から南のエリアには、古町・四日市などの地名

が残っています。古町地区にある古町観音堂の本尊は、室町時代の作とされる聖観音像で



中世梁川の都市推定図

です。伊達氏館南部に広がっている町屋群の中心的施設であった可能性も考えられます。古町や四日市といった地名の存在は、伊達氏館からなる中心域から広瀬川を挟み、町屋や市場が広がっていた可能性を想定させます。

中世都市梁川は、中心域を柱として北部と南部に町屋を展開していた様子を物語っています。伊達氏が南東北で実質的な力をつけていく中で、梁川が整備されていった様子が発掘調査からも明らかになってきます。梁川は、伊達氏の成長とともに南東北の政治・経済の中心的都市としての力をつけていくのでした。

※町屋…通りに沿って軒を連ねて立ち並ぶ家屋群のこと。特に城下町の商いの場を兼ねた商人や職人の短冊形の家屋群を指す。